

秋林たかし ちば県政報告

令和3年 春号



新型コロナウイルスなど千葉県における課題に関して、令和3年2月の定例県議会でも取り上げた内容について、その一部をご報告いたします。

予算委員会

新型コロナウイルス対策の強化を

Q 市町村によるワクチン接種に対応できる人や物の差によって、事業の進捗に格差が生じないように県としてどのような支援を行うのか。

A 県では、それぞれの地域における医療体制の状況や課題等を共有しながら、事業進捗に差が出ないように、市町村の準備状況を随時確認しています。事前準備やその後の進捗が遅れている市町村には、積極的に助言を行っていくなど、情報共有・連携を密にし、ながら、必要な支援を行ってまいります。

障がい者支援の充実を

Q 介護老人保健施設を障害福祉サービス事業所に指定し、施設の空床を短期入所として利用する取組について、その進捗状況はどうか。

A 介護老人保健施設が行う医療型短期入所については、今年度新設された3か所を含め4か所で実施されていますが、県では更なる拡充を図るため、昨年10月に県内の老健施設に対して障害福祉サービスの制度説明等を実施し、また、11月に意向調査を行いました。意向調査の結果、「今後、短期入所事業を実施したい又は実施に向け

て検討したい」と回答した施設が8か所、「まずは制度を知ってみたい」と回答した施設が24か所あったことから、今後は、これらの施設等に働きかけを行い、医療型短期入所の充実を図ってまいります。

里親への経済的支援強化を

Q 里親を増やすため、研修受講に要する費用などへの経済的支援に取組むべきと思うがどうか。

A 新規事業として、里親及び里親希望者が研修に参加する際の交通費や、委託前における里親と子供との面会や里親宅における外泊などの交流に要する費用を支援するための予算を、来年度当初予算案に計上しました。

県民生活を支える路線バスへの支援を

Q 感染症の影響により利用者が低迷する中にも、県民生活を支えるため、運行を継続する路線バスへの追加支援を考えているのか。

A 路線バスへの支援として、国と県が支援する広域的・幹線的なバス路線の補助要件の緩和を、今後、進めていきたいと考えています。具体的には、感染症の影響に伴う輸送人員の減少を考慮し、1日あたりの輸送人員が補助対象基準を下回る場合であっても、補助の対象となるよう、制度の見直しを検討していきます。あわせて、国に対して、引き続き、事業者の事業継続に向けた支援の充実を要望していきます。

健康福祉常任委員会

感染症対策のため協定締結を

Q 地震など災害時の医療救護活動については、各種団体と協定を締結しているが、感染症対策についても今後協定を結ぶべきではないか。

A 本県の感染症対策については、千葉県感染症対策審議会や、5つの専門部会を通じ、日頃から県医師会などの関係団体と連携して進めているところですが、また、今回の新型コロナウイルス感染症については、この審議会の他に感染症対策連絡会議専門部会を設置し、医師会、看護協会などの団体に委員を依頼し、ご意見をいただくとともに、クラスターへの対応など個別の団体等の協力が必要な際には、その都度協議をして、迅速に対応したところですが、

各団体、各種団体等との協定については、関係団体、関係者のご意見や、他の自治体の意見も踏まえて検討して参りたいと考えています。

口腔がんの対策強化を

Q 千葉県がん診療連携協議会の中で、がんの部位により様々な専門部会があるが、口腔がんに関する部会がない。口腔がんが増えているということであり、口腔がんについての新たな部会を設置すべきと思うがどうか。

A 現在、千葉県がん診療連携協議会には、県内のがん診療連携体制の強化を図ることを目的に、県内のがん診

療連携拠点病院や医師会、関係行政機関で構成され、7つの専門部会と、その下に9つの作業部会があります。作業部会のうち、口腔ケアに関する事項を所掌する口腔ケアパス部会があるが、こちらを来年度から新たに県内の口腔がん診療について検討することを所掌に加えて、名称も「口腔がん・口腔ケア部会」として再編することになったと聞いています。

この再編により、口腔がん診療の質の向上、診療連携体制の構築、患者に対する相談支援や療養生活の質の向上が図られることを期待しています。

トピックス

県道市川柏線の東松戸駅から高塚十字路間において、新設道路が令和3年2月に開通しました。これまでの狭くカーブ状であった道路が、直線で見通しも良く、歩道もある道路となりました。

私も地域の皆様の声を受け、議会で訴えてまいりました。

用地の取得にご協力いただいた地元関係者の皆様、ご努力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。

